

南相馬市社会福祉協議会 東日本大震災記録誌



絆・復興・感謝

～東日本大震災・原発事故から10年の歩み～

2021年（令和3年）12月

社会福祉法人 南相馬市社会福祉協議会



南相馬市社会福祉協議会 東日本大震災記録誌

目次

- 発行にあたって（会長あいさつ） . . . 1
- 2011年度（平成23年度） . . . 2
東日本大震災。原発事故が発生！！
全国からのたくさんの支援に感謝の年
- 2012年度（平成24年度） . . . 6
たくさんの“つながり” 復興に向かって歩き出す
- 2013年度（平成25年度） . . . 8
止まった時間が動き出す
- 2014年度（平成26年度） . . . 10
「仮設住宅」から「災害公営住宅」へ 変わり行く生活
- 2015年度（平成27年度） . . . 12
進んでいく 生活基盤の再構築
- 2016年度（平成28年度） . . . 14
震災から5年… 小高区 避難指示解除 ～おかえりなさい～
- 2017年度（平成29年度） . . . 16
災害ボランティアセンター閉所
たくさんのボランティアさんに「ありがとう」
- 2018年度（平成30年度） . . . 18
『Restart』 ～再生の年～
- 2019年度（令和元年度） . . . 20
「平成」から『令和』へ 自然災害は続く…
- 2020年度（令和2年度） . . . 22
震災から10年 「with コロナ」の時代へ…
- 10年間の主な経過 . . . 24
- 寄せ書き . . . 26

発行にあたって

～ 幸せは、感謝とプラス思考から ～

私たちの願いは、「一生幸せに過ごしたい」に尽きるかと思います。しかしながらそれは不可能であり、生きている限り悩みや不安を取り除くことは難しく突然の自然災害、病気や老いることなど、不安やそれに伴う苦しみから逃れることはできません。

あの東日本大震災から10年を経過し今回手作りではありますが、振り返り、写真を主体として記録誌を発行する運びとなりました。

全国各地から延べ8万人を超えるボランティアの皆さんが駆けつけていただきました。物資の支援もいただきました。市民の皆様も、避難、復旧、そして復興へ苦難の道を歩まれました。

私たちは、災害によって多くのことを失いました。その悲しみは今も続いております。今まで当たり前と思っていたことが、当たり前で無くなりました。

電車に乗れること、新聞が届くこと、電灯がともること風呂にはいれること。。大切なことは、

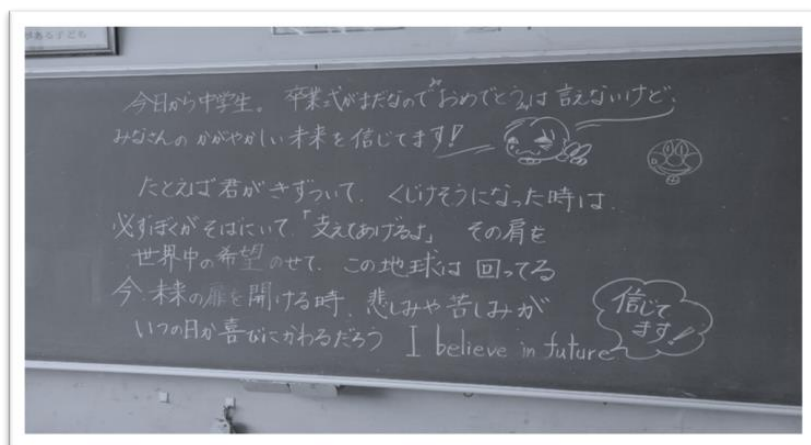
- ①災害や苦労、苦痛の経験から様々なことを学びそれを次の人生に生かすこと
- ②苦労を経験したことで相手の立場を理解し助け合い支えあうこと

幸せは、自分の心にあります。当たり前だったことが感謝に代わり、「ありがとう」の言葉が出てきます。そうすると気持ちが落ち着き、笑顔になりプラス思考になります。

「幸せは 感謝とプラス思考から」

社会福祉協議会は、ともに支えあい助け合うコミュニティ社会の構築を目指しております。市民の幸せを願い市民とともに役職員一丸となって、幸せづくりに取り組んでまいります。今後とも更なるご支援、ご指導よろしく申し上げます。

社会福祉法人
南相馬市社会福祉協議会
会長 西浦武義



【廃校となった真野小学校の黒板から】

2011年（平成23年度）

東日本大震災・原発事故が発生！！

全国からのたくさんの支援に感謝の年



【2011.3.12 小高浮舟文化会館避難所】

小高区では、デイサービスセンターの利用者さんと一緒に職員も一時避難し、不安な時を過ごしました。



【2011.3.14 原発3号機爆発した日の社協事務所の様子】

“絶対安全”と言っていた原発が次々と爆発。一瞬思考停止！

これから 私たちに、このまちに、何が起ころのか…、不安しかなかった。



【2011.4.28 『託寺』の様子

～お寺で子ども達をお預かり～】

「原発事故で保育所が閉鎖になった！」

「子どもを預ける場所が無くて仕事に行けない！」

働くお母さんの困りごとから始まった取り組み。地域のお寺と全日本仏教青年会様の全面的な支援をいただき開所。お休み中の保育士さんやボランティアさんのお手伝いをいただくなど、みんなで支える「託寺所」でした。



【2011.4.10 原町区福社会館内

～全国から寄せられた支援物資～】

屋内退避指示が出され、市内での物資調達が困難な中、全国から災害ボランティアセンターへ寄せられた支援物資。在宅の要支援者へ食料品やおむつなどの日用品を、安否確認を兼ねてお届けした。

【2011.3月～ 災害ボランティアセンター を開設】

震災で被害を受けた人たちを支援するため、原町区と鹿島区に災害ボランティアセンターを設置しました。原発からの距離で地域が分断されたため、対応が異なる2つの災害ボランティアセンターを運営することになりました。

この年だけで、延 28,619 人のボランティアさんが全国各地から駆けつけてくれました。同年の家屋の片づけなどの活動件数は 3,322 件。



災害ボラセンの「シンボルマーク」。ステッカーなどの啓発グッズを作りました。



【2011.5.5
鹿島区災害ボランティアセンター
朝のオリエンテーションの様子】



【2011.5.5
原町区災害ボランティアセンター
ボランティア受付の様子】



【2011.7.16
側溝泥出し作業の様子（鹿島区）】



【2011.5.5
床下の泥出し作業の様子（原町区）】



【2011.8.20 鹿島区復興イベント】

全国各地から支援いただいたボランティアさんや災害ボランティアセンター運営支援者の皆さんに復旧の様子を見ていただき感謝の気持ちを伝えたいと、鹿島区ボランティア有志と鹿島区災害ボランティアセンターが企画しました。当日は約 200 名の方々が参加し、バスで現地視察や 真野小学校での交流会などでお互いの絆を深めました。



【2011.5 府中派遣村より寄贈の軽トラダンプ】

震災復旧活動に要する軽トラックが全国的に不足する中、府中緊急派遣村さんとして2回目（5月6日～）となるボランティア活動の後、貴重なダンプ式の軽トラックを寄贈していただきました。2019年(令和元年)12月に惜しまれつつ廃車となりましたが、その後のボラセン活動に広く活用されるほか、社協の環境整備や廃棄物運搬、砂利敷作業などに大いに活躍してくれた“府中軽トラダンプ”でした。



【2011.8.1 災害ボラセンから、“生活復興ボラセン”へ】

被災者ニーズの変化に伴い、家屋の片づけ支援中心の災害ボラセンから、仮設住宅入居者への生活支援のためのボランティアセンターに移行しました。



【2011.8.1 生活支援相談員配置】

生活復旧復興ボランティアセンターから名称を変え、生活支援相談員が東日本大震災の被災者支援を目的として13名配置されました。仮設住宅を中心に個別訪問を行い、被災者のニーズ把握に努めました。



【2011.12.21 角川原仮設住宅サロン】

生活支援相談員は、孤立防止とコミュニティづくりの為に、毎週各仮設住宅の集会所で定期サロンを実施。サロンにたくさんのボランティアさんが支援で来てくださり、仮設入居者と交流を図りました。



【2011.10.29

サポートセンター「希望」開所式】

東日本大震災で被災し、仮設住宅等に居住する方を総合的に支援する目的で、福島県が南相馬市鹿島区に南相馬市サポートセンターを開所。福島県より高齢者等サポート拠点事業を受託しました。震災後、休止していた小高区のアスナロデイサービスがサポートセンター内に移転し事業を再開しました。



【2011.5.9

鹿島区すみれデイサービス再開】

すみれ・ひまわりデイサービスは、震災直後から介護保険業務を休止し避難者を受け入れ支援していたが、ひまわりデイを避難所としたので、ひまわりの利用者・仮設住宅で生活する要介護・要支援者を受け入れ、すみれデイサービスの運営を再開しました。



【2012.2

サポートセンター仮設住宅サロン】

サポートセンター内で、高齢者等サポート拠点事業、地域交流事業、要介護者見守り安否確認事業等を開始しました。



【2012.2.25 生活支援相談員】

雨の日も雪の日も支援活動は365日、生活支援相談員は仮設住宅等を訪問し被災者の声に耳を傾けました。

2012年度（平成24年度）

たくさんさんの“つながり”

復興に向かって歩き出す

新たなボラセンのシンボル。
たくさん購入してくれてありがとう♡



【2013.2.1～

災害復旧復興ボラセンを開所】

警戒区域の小高区への立ち入りが可能になったことから、災害ボランティアセンターの拠点を小高区に移しました。



【2012.7.2 仲町児童センター再開館】

東日本大震災直後から休館していた仲町児童センター。震災直後は民間の災害ボランティアセンターとして使用していました。保護者が就労のため放課後家庭で過ごすことができない児童12名を迎え、再開館しました。入館のつどいをした後みんなで紙芝居を見て楽しみました。



【2012.9.26 お待たせしました！

原町区高齢者のつどい 復活】

震災で休止していた高齢者のつどいが復活。多くのボランティアさんのおかげで通常業務に戻りつつあります。災害ボランティアセンターで活動したボランティアさん達も駆けつけてくれました。つながりに感謝です。

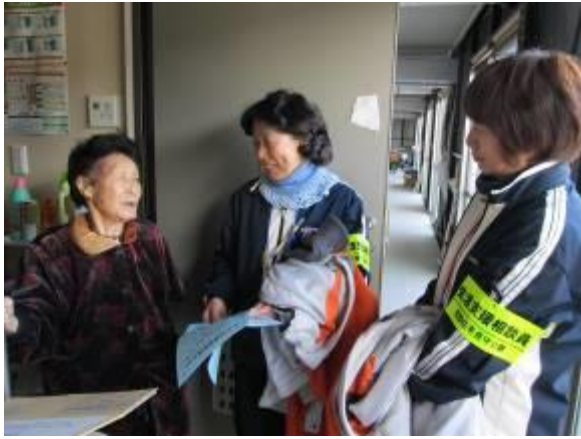
≪写真：MAX音楽隊（東京都大田区）≫



【2012.10.12 視察研修受入れ】

これまで支援いただいた県外の社協や団体の皆さんが、南相馬市の復興の様子を視察に来ていただくようになりました。職員が現地説明などのガイドをする機会が増えました。

≪写真：みずほボラセン（東京都瑞穂町）≫



【2013.1.30 生活支援相談員】
訪問の中で、さまざまな相談や震災時のお話に耳を傾け、被災者の気持ちに寄り添った支援活動を続けました。



【2012.8.26 熊本県人吉市からのエール】
心のもったメッセージをありがとうございました♡



【2012.12.5 南相馬市飯館自治会に施設貸与開始】
飯館村避難者生活支援事業のため、仲町児童センター 2階第一集会室を飯館村自治会に 2018年(平成30年)3月末日まで賃与していました。飯館村自治会の方々にはボランティアで館庭の除草をしていただくなど、子どもたち共々大変お世話になりました。

家族介護教室のお知らせ
ストレスをため込んでいませんか？
 ～ストレスと上手につきあうには～

南相馬市地域包括支援センターにおいて、介護教室を開催します。
お気軽にご参加ください。

日時：平成 24 年 9 月 5 日 (水) 13:30～15:00

会場：鹿島保健センター

対象者：南相馬市内在住の方で、介護をされている家族の方
介護に興味のある方

内容：臨床心理士による講話

参加費：無料

定員：20名程度

★事前にお申し込みをお願いします
★介護上のストレスや不安、困ったこと等がありましたら
申し込み時にお知らせください。

申込み・問合せ
南相馬市地域包括支援センター（鹿島地域）
（七つみ荘内）
電話 0244-46-4600

【2012.9.5 家族介護教室
「ストレスをため込んでいませんか？」
臨床心理士より、ご自宅で介護されている方にストレスと上手につき合う方法など、講和を頂きました。

南相馬市 平成 24 年 8 月 4 日
南相馬市児童福祉協議会 児童課

夏休み支援プログラムの終了について

より良い夏休みを過ごせますように、保護者の皆様には感謝の気持ちを込めてお知らせいたします。

さて、今年度の夏休み支援プログラムは、お盆明けから夏休みの最終日まで、また、1学期末までの期間をとおもて、お盆明けまでの期間で実施いたしました。お盆明けからの期間については、お盆明けの準備期間のため、実施が困難な状況となっていました。お盆明けからの実施については、お盆明けの準備期間のため、実施が困難な状況となっていました。お盆明けからの実施については、お盆明けの準備期間のため、実施が困難な状況となっていました。

実施の経緯は、児童福祉協議会が主催となり、実施が困難な状況となっていました。お盆明けからの実施については、お盆明けの準備期間のため、実施が困難な状況となっていました。お盆明けからの実施については、お盆明けの準備期間のため、実施が困難な状況となっていました。

【2012.8.2～4 南相馬市児童のための夏休み支援プログラムIN新潟】
登録児童 24名と職員 4名が参加し、[新潟県立こども自然王国]で沢山の貴重な体験をさせていただきました。

2013年度（平成25年度）

止まった時間が動き出す



【2013.7.20 小高区で家屋の片づけ・
ゴミ搬出が始まる】

生活復旧復興ボランティアセンターによる警戒区域の小高区での活動が本格化し、小高区の止まった時間が動き出しました。家の中の物をすべて処分する悲しい思い…。



【2014.1.25 かながわ南相馬市民のつどい】

『かながわ避難者と共にあゆむ会』が、福島県からの避難者を支援して下さっているので参加。南相馬市の現状など話をさせて頂き、情報交換を行いました。



【2013.9.19 寺内家合第2仮設住宅サロン】

生活支援相談員の定期サロンに、市立総合病院の研修医が定期的に講話で入っていました。この日は、喜多方市社協からもボランティアでお越し頂き、レクリエーションを行って頂きました。



【2013.6.3 会津若松市小高耐サロン】

会津若松市社協が避難者向けに開催しているサロンに参加。南相馬市の避難者も参加していたので、継続的にサロンのお手伝いに行きました。



【2014.2.25 終わらない避難生活】

避難先から戻り、南相馬市内の仮設住宅に入居する方も少しずつ増えた時期。まだ故郷には戻れないが、南相馬市に戻ってきたことに安堵する方も多かったです。



【2013.7.1 セーブザチルドレンジャパン
より防災頭巾45個寄贈】

以降、避難訓練（地震・津波想定）で活用させていただき、次の災害発生に備え、子どもたちの生活空間に保管しています。



【福岡県大野城市社協さんの
福島県応援ショップ】
全国各地で、様々なカタチで福島を応援
していただいています！感謝です♥



【2013.11.19 東京都福生市社協さん
による 小高区の人との交流】

様々な交流が生まれました。
そして様々な ゆるキャラに出会いました(^^)



【2013.11.30 ひとり親世帯
親子ふれあいバス遠足】

震災後は様々な事業やイベントが制限されました。子ども達(親子)に少しでも楽しい時間を過ごしてもらおうと、バス遠足を企画しました。陶芸に夢中になりながら、「久々に外出できました」との声があがりました。



【2014.2.10 東日本を中心に大雪が発生】
南相馬市では珍しく大人の膝上まで積雪。
大きな災害に見舞われた地域もありました。



【2013.8.20 家族介護教室
「毎日笑おう！笑いヨガ！」】

日本笑いヨガ協会の方をお呼びし、身体を使ってワハハと豪快に笑いあいました。

2014年度（平成26年度）

「仮設住宅」から「災害公営住宅」へ 変わり行く生活



【人が居なくなった仮設住宅】 【建設が進む災害公営住宅】

【2014.8.21 「行茶」自主サロン】

震災の年から定期的に、ボランティアでサロンに参加して下さっている天台宗のお坊さんによる夏のイベント。毎年、鹿島区西部コミュニティセンターで夏祭りを行っていただきました。



【2015.3.2 にじいろカフェ】

生活支援相談員の保育士有資格者や経験者がスタッフとなり、被災者対象の子育て支援サロンを2014年度(平成26年度)から定期的に開催し多くの親子が参加しました。



【2014.9.21 東京都杉並区災害 ボランティアの会の皆さん “南相馬市と杉並区のつながり”】

2011年には杉並区社協職員の皆さんが災害ボランティアセンターの運営を支援。小高区での災害ボランティアセンターでは杉並区民の方々に何度も活動いただきました。その交流は今も続いています！



【2015.1.25 ボランティアフェスティバル に「悪役商会さん」が来てくれました】

「まずい！もう一杯！」のセリフで有名なあのお方です。著名な方々もたくさん南相馬市を応援してくれています。



【2014.10.18 南相馬市健康福祉まつり】

市内の福祉・医療等の関係機関が一堂に集う“南相馬市健康福祉まつり”が開催。毎年2,000人の市民が訪れる南相馬市の中でも大きなイベント。

たくさん子ども達の声も聞こえるようになり、震災前の賑わいを取り戻しつつあります。



【2014.5.23

避難訓練（地震・津波想定）】

2012年度(平成24年度)以降、地震だけでなく、津波想定避難訓練を実施するようになりました。その際子どもたちは、セーブザチルドレンジャパン寄贈の防災頭巾を着用し、避難していました。



【2014.6.26 南相馬市ファミリー

サポートセンターまかせて会員交流会】

2014年(平成26年)4月14日に南相馬市男女共同子ども課から引き継ぎ、仲町児童センター内に事務所を設置しました。この日は、社会福祉協議会会長と常務理事、まかせて会員11名が参加し、会員交流会を開催。その後も定期的に保育サポーター養成講座やまかせて会員講習会を実施しました。



【2014.6.11 仲町児童センター大規模改修終了】

2013年(平成25年)11月22日より仲町児童センター大規模改修工事が始まり、外壁や内装、玄関ポーチの耐震補強などの工事をしました。建物が黄色から白色に変わりました。

2015年度（平成27年度）

進んでいく 生活基盤の再構築



【2015.5.1 原町事務所開設式】

鹿島区に事務所を置いていた生活支援相談室が、支援対象者の増加ときめ細かな支援を構築するため新たな体制づくりをし、原町区桜井町にも事務所を開設。2拠点で活動！



【2016.2.4

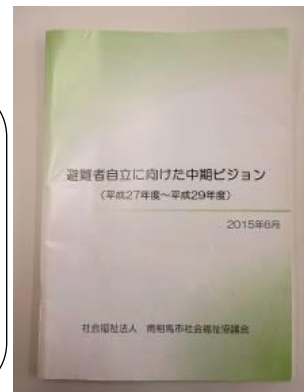
生活困窮者自立支援制度講演会】

この年から生活困窮者自立支援事業がスタートしました。南相馬市での愛称は“ハートフルサポート”
様々な困りごとを抱えた人への総合的かつワンストップの相談体制を整えます。

【20156月

中期ビジョン完成】

震災から4年が経過し、避難者自立に向けた課題が多様化重層化し作成。「地域福祉活動計画」の一部「避難者自立促進」の部分を補完したもの。



【2015.6.24 二本松市サロン 『こっ茶こっせ』】

二本松市社協主催の避難者対象のサロンに、毎回参加協力をしていました。内容は毎回様々で、参加された方は皆さん楽しまれている様子でした。

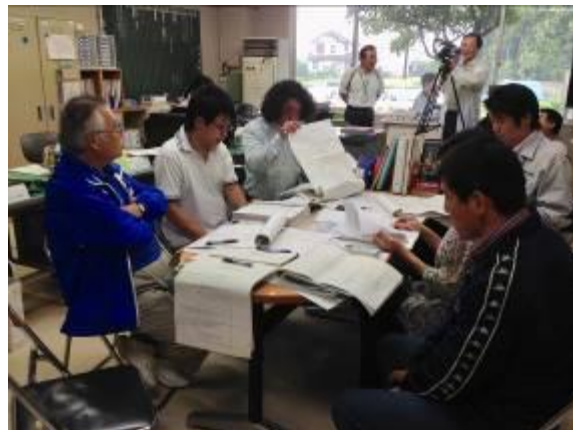


【2015.11.16 家族介護者交流会】

年に1度、豪華な食事を囲みながら介護者同士でしかわからない気持ちをお話し頂きました。



【2015.11.20 セーブザチルドレン
ジャパンより非常用バッグ3個・救急セ
ット1個寄贈】
以降、避難訓練で活用させていただき、
次の災害発生に備え保管しています。



【2015.8.30 災害時要配慮者支援
センター実施訓練（県総合防災訓練にて）】
福祉避難所と要配慮者を繋ぐため「災害時要
配慮者支援センター」の運用を想定した初め
ての実施訓練を行いました。



【2015.6 仮設あすなろデイ散歩】
仮設住宅や避難生活にも徐々に慣れて、
外を散歩し景色を楽しむ心の余裕も出て
きました。



【2016.1.18 小高区あすなろデイ風呂修繕】
小高区の避難解除に伴い、帰還後の事業再開に向け
施設の修繕を開始しました。

2016年度（平成28年度）

震災から5年… 小高区 避難指示解除

～おかえりなさい～



【2016.4.1

小高区福祉サービスセンター開所式】

小高区（旧警戒区域）における社協の地域福祉推進の拠点である小高区福祉センターが、小高区健康福祉センターに居所を変えて再出発しました。



【2016.4 にいほろカフェ移動】

かしま交流センターで行っていたサロンを、サポートセンターに開催場所を移しました。



【2016.8 ニコニコ元気塾の夏祭り】

介護保険外の高齢者を対象にしたニコニコ元気塾の利用者と地域の学生やボランティアさんが交流する機会となりました。



【2017.1.5

子どもニコニコ元気塾の餅つき】

市内の社会福祉法人が分野の垣根を越えて連携し“地域における公益的な取組”を始めました。その第1弾となった取組み「子どもニコニコ元気塾」では、子ども達をはじめ、地域のいろいろな人達がつながり、たくさんの笑顔を生み出すことが目的です。



【2016.10.19 鹿島区・相馬方部借上げのつどい】

借上げ住宅にお住まいの方は、周囲との関わりも少なく、仮設住宅のような支援を受けていないので、様々な悩みや不満を抱えていました。つどいを開催し、楽しいひと時を過ごして頂きました。



【2016.6.27 福岡県大野城市を表敬訪問】

震災後いつも南相馬市に想いを寄せていただいている大野城市に会長が訪問。大野城市社協様と大野城市様に感謝状を贈らせていただきました。



【2017.2.27 コープふくしまフードバンク提携協定書締結】

おかげさまで、生活困窮者などへの支援の幅が広がりました。またこの時を機に市民からの食料品等の協力の輪も広がっています。
「ありがとうございます！！」



【2017.1.26 災害ボランティア養成講座】

脳卒中センターと消防・防災センター完成したので、講座に組み入れて市民の皆さんと見学しました。
『災害は忘れた頃にまたやってくる！』災害時に市民と共に支援活動ができるように災害ボランティア養成講座を続けています。



【2016.11.2 平成28年度高平地区防災避難訓練】

東日本大震災以降実施されている、高平地区全体の地震・津波想定避難訓練に、当館職員が初めて参加しました。以降毎年度、見守り等も含む何かの形で参加しています。

2017年度（平成29年度）

災害ボランティアセンター閉所

たくさんのボランティアさんに「ありがとう！」



【2018.2.25 災害ボランティア感謝のつどい】

これまで支援いただいたボランティアの方々へ直接感謝を伝えようと、浮舟文化会館(小高区)にて開催しました。ボランティアや住民、関係者約230人が参加。
災害ボランティアセンターは震災直後の2011年(平成23年)3月に開所してから、約7年間で延べ8万人を超えるボランティアの方々の支援をいただき、2018年(平成30年)2月をもって閉所しました。 ●ボランティア数(延)：83,789人 ●活動ニーズ件数(延)：10,636件



【2017.11.5 イザ!カエルキャラバン!】

親子対象に楽しんで学べる防災プログラム『イザ!カエルキャラバン!』を初めて開催!なんと、400人近い親子が参加しました。地域の様々な団体やボランティアさんがイベントの運営に関わります。



【2017.7月 田村市社協と同行訪問】

田村市に避難している南相馬市民宅を、田村市社協生活支援相談員と同行訪問を実施。避難先での不安や様々な思いを傾聴し、その後も連携を行いながら避難者支援に努めました。



【2018.2.27

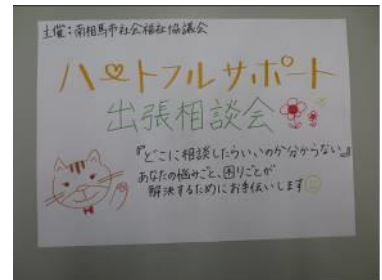
龍谷大学の皆さんと小高区高齢者の交流
“福島スタディツアー” 遠く京都から、学生さん達との交流を毎年続けてもらっています。
またいつでも「おいでやすう〜♪」



【2017.12.15 家族介護教室

「こころとからだをリフレッシュ!!」

福島県音楽療法士協会の先生方をお呼びし、音楽にあわせ、身体を動かし、先生方の素晴らしい演奏に聞き入りました。



“出向く福祉”
ハートサポート出張相談開始!



【2017.8月 小高区トンパック】

小高区が避難区域解除になり、住民が少しずつ帰還する中、山積みになったトンパック（除染で出た土）が至る所で目立っていました。



【2017.7.20 平成 29 年度台湾友好基金

「被災した子どものための遊具設備事業」による砂場設置】

前年 2016 年度(平成 28 年度)にはブランコも設置していただき、児童の遊びの幅が拡大しました。



福島県出身の“なすびさん”
が来てくれました!(^_^)!



【2018.3.16 平成 29 年度福島めばえ助成金によるフェンス改修工事】

穴が空き錆びたフェンスを助成金により改修していただき、児童の安全を確保することができました。

2018年度（平成30年度）

『Restart』 ～再生の年～



【2018.4.1 南町事務所開設】

生活支援相談室は、鹿島区・原町区・小高区の事務所に拠点を置いていたが、2018年4月に職員体制と支援強化を図るため原町区南町に事務所を開設し一つにしました。



【2019.3.2 AKBイベント】
毎年3月にたくさんの元気をもらっています！



【2018.5.25 原町地区民児協役員会議】

南町に事務所を開設したことに伴い、原町地区民児協役員の研修会という事で会議を持ちました。避難者の状況や現状など様々な情報交換を行い、また地域住民の生の声を伺うことができました。



【2018.8.29 ゴスペラーズさんからの“歌のプレゼント”】

2011年の災害ボランティアセンターでの活動からご支援をいただいているゴスペラーズのみなさん。この年、全国ツアーの最中にもかかわらず南相馬市に来ていただき、復興公営住宅の方々へ素敵な歌のプレゼントをいただきました。



【2018.7.20 家族介護教室「健康で美しく、輝き続けることができるように」】

K. K. K support club あゆみの木 健康運動指導士により、介護や認知症予防のための運動を教えてくださいました。



【2018.8.31

ふくしのスローガン表彰式】

福祉について身近に感じてもらおうと始めた事業。初年度は89通の応募がありました。今では定番の事業の一つです。



【2019.2.23

ボランティアフェスティバル】

災害ボラセン、託寺所、行茶サロン…震災後さまざまな取組みの立ち上げに深く関わっていただいた支援Pの米澤智秀さん。実は(?)茨城県の僧侶です(合掌)



【2018.11.4

失語症友の会 ひめさゆりの会】

失語症の患者さんやその家族の交流の場が欲しいとの声から生まれた「ひめさゆりの会」。

この年、みんなで初めて電車に乗って出かけ(電車でGO)、美味しいお寿司を食べてきました。

みかんのお礼・感想

1年生 ☆ 私たちのためにみかんをきふしてくれてありがとうございます。みかんはあまり好きではないけど、こんかいのみかんは、とてもおいしかったです。

2年生 ☆ 静岡けんの小学校の方がたへ、わざわざみかんをくださっていただきありがとうございます。八人という数少ない人づうなのにありがとうございました。

3年生 ☆ おいしいみかんをくださってありがとうございます。このみかんを食べたらしんさいはつらかったけどきくてよかったです。ありがとうございました。おいしかったです。

4年生 ☆ みかんがみずみずしくおいしかったです。またみかんをください。うまし!(みかんさいごう)

5年生 ☆ 寒い日に、しゅうかくしたり、大変なのにすごいなあと感、みかんはとてもおいしかったです。今日は、みかんありがとうございました。

6年生 ☆ 一生けん命作ってくれてありがとうございます。とても喜んでおしかったです。大変な思いをしている時は、おたがい助けあっていきましょう。ありがとうございました。

【2018.11.26

浜松市立平山小学校
3~5年生収穫みかんの寄付】

添えられたお手紙を職員が読み上げ、全児童で会食をしました。そして、児童一人一人がお礼の手紙を書き、集合写真などと一緒に返礼をしました。

2019年度（令和元年度）

「平成」から『令和』へ

自然災害は続く...



2019.5月 新元号は「令和」
新しい時代へ。

【2019.10.13

令和元年台風被害】

台風19号が襲来！震災から10年経過しようとしている年に、また大きな災害に見舞われました。

社協本所が入る原町区福社会館も床上浸水に。翌朝 職員で泥出し作業しましたが、とても大変でした(汗)

ヘルパー車やベッドなど多くの備品が水没してしまいました。



【2019.10.18～ 2度目の災害
ボランティアセンター開設】

台風19号で甚大な被害を受けたことにより、約10年ぶりに災害ボランティアセンターを開設し、市内外のボランティアさんの協力をいただき、被災者宅の泥出しや片づけ支援を行いました。

東日本大震災時に災害ボランティアセンターを経験していない職員も大活躍し、ボラセン運営のノウハウと教訓を受け継ぎました。《写真：2019.11.5》

- 開所日数：25日間
- ボランティア数：延612人
- ニーズ件数：29件（延47回の作業）

相談室の様子

福祉用具の業者さんに協力をいただき、福祉用具や介護食などの商品展示を行い、来場された方々に実際に体験をいただきました。この場面は介護ベッドや手すりを見ていただいているところです。



ずらっと並んでいるのが、温めるだけの介護食です。食べられる状態に合わせた形態になっています。味はしっかりしていて美味しかったです。

飲み物を飲みながら、気さくにお話をしていくところです。この相談室の他にも、介護されているご家族の方にも介護アロマセラピーの相談室にもご参加をいただきました。



【2019.7.23 介護者交流相談室】

対象者を在宅で介護されている方とし、お茶を飲みながら相談やお話ができる場を設けました。



【2019.6.26

小高区福祉サービスセンター引越し】

震災後、小高区役所→小高保健福祉センターと拠点を転々としてきた小高区福祉サービスセンター。社協が所有する「小高社協会館」に落ち着きました。

“地元愛”でパワフルな小高区の老人クラブの皆さんにお手伝いいただきました。



【2019.10 中期ビジョン第2期完成】

第1期策定以降、避難解除が進み復興に向けた取り組みは、着実に進展していました。これまでの成果を検証しながら、今後2カ年の取り組みを明確にしました。



【2019.6.13 社会福祉法人連絡会

による出前講座の実践（原町第二中学校）】

この年の5月に、市内8つの社会福祉法人が連携し、「南相馬市社会福祉法人連絡会」が発足。

取り組みの一環として、“オール福祉”での福祉教育推進を始めました。



【2019.8.23

みんなの食堂「ゆるっと】

「南相馬市社会福祉法人連絡会」による“こども食堂”を開設しました。

☆相双地区初☆

地域の親子や高校生、ボランティアさん達と一緒に、毎月季節折々の食事を作って楽しみます♪

2020年度（令和2年度）

震災から10年

「with コロナ」の時代へ。。。



【新型コロナウイルス感染拡大】
“ソーシャルディスタンス” “PCR検査”
“クラスター” “緊急事態宣言” 等々、
また多くのコトバを覚えました。
“新しい生活様式”により様々な所での「検
温所」があたりまえに…。



【2020.10.1
赤い羽根共同募金 with コロナ】
市役所前の二宮尊徳も、マスクで感染
防止！！（社協会長も一緒に）



【2020.5月～
まごころマスク事業】
コロナ禍で、家にいても一人でできるボラ
ンティア活動として 手作りマスクを募集。
市民から 5,000 枚を超える協力をいただき
ました。
市内の福祉施設や生活相談を受けに来た方
などへお配りしました。



【2020.10.21
みなみそうま市民ふくし大学
ボランティア講座 開講】
福祉講座を受講した方々が、希望するボラン
ティア活動につながるしくみとして、社協内
に“ふくし大学”を開設しました。様々なボ
ランティア養成コース・講座が集約されてい
ます。

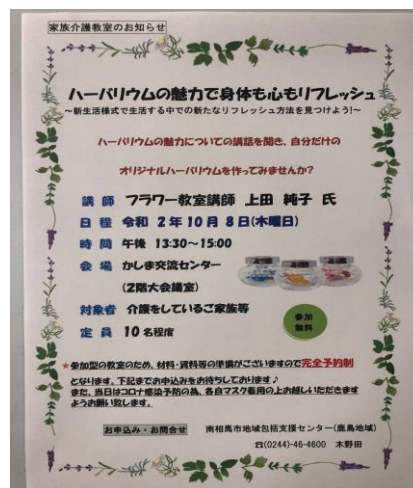


【2020.7.17 熊本県豪雨災害に対する“愛の募金”（青葉幼稚園）】

豪雨災害により大きな被害を受けた熊本県への“愛の募金”をお預かりし、日本赤十字社を通じて被災地へ届けました。青葉幼稚園の子ども達から熊本へ向けて“元気パワー”を贈りました。



熊本県人吉市へ、市民から募ったタオルを支援物資として送りました。（2020.10月）



【2020.10.8 家族介護教室「ハーバリウムの魅力で身体も心もリフレッシュ」】

フラワー教室講師の方をお呼びし、自分だけのオリジナルハーバリウムを作り、新たなリフレッシュ方法を発見しました。



【2020.4.13 社協のバスに乗って登館スタート（降車風景）】

震災後子どもたちは、石神第二小学校から南相馬市のスクールバスで、令和元年度は徒歩での登館をしていました。近年増加する自然災害や交通事故等から子どもたちを守り、安心、安全に登館できるよう、2020年(令和2年)4月13日から社会福祉協議会のバスでの送迎が始まりました。



【2020.11.5 みんなのラジオ体操】

コロナ禍で外出機会が減ってしまい、身体機能の低下が懸念されていたため、団地内の交流と身体機能の低下防止を目的とし、各復興公営住宅等でラジオ体操を行いました。

南相馬市社会福祉協議会
東日本大震災から10年間の主な経過



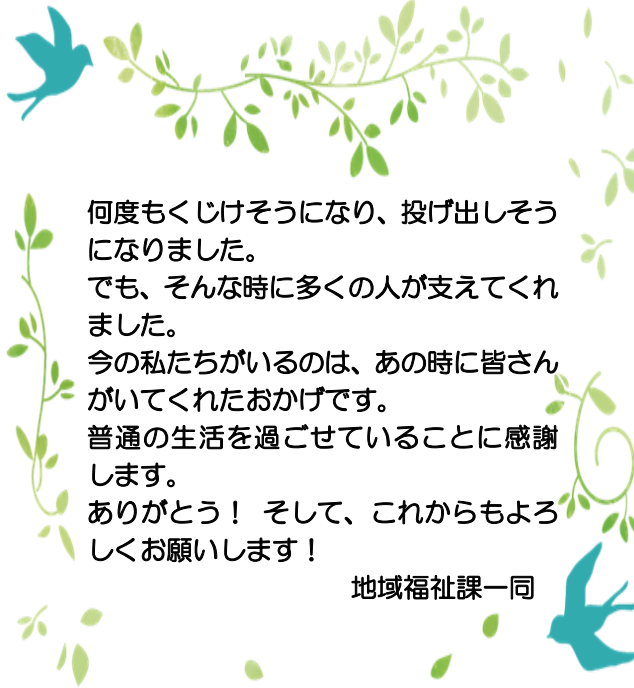
2011 年度（平成 23 年度）		2012 年度（平成 24 年度）	
2011 年 3月11日	東日本大震災発生	2012 年 7月1日	社協役員改選
	原町福祉会館に避難者受け入れ開始	7月2日	仲町児童センター 再開
	包括及び居宅、各区介護サービス事業所は、利用者及び社協職員の安否確認開始	2013 年 2月1日	災害復旧復興ボランティアセンター 設置 (小高区老人福祉センターにて)
	津波被害による帰宅困難者とデイサービス利用者を、鹿島区福祉サービスセンター・すみれ・ひまわりデイサービスに受け入れ	2013 年度（平成 25 年度）	
	あすなるデイサービスは発災後、業務を休止し浮舟会館に利用者を避難移動	2013 年 4月1日	小高区出張窓口設置（小高区所内にて）
3月12日	福島第1原発2号機 水素爆発 第一原発から20km圏外に避難指示発令	2014 年度（平成 26 年度）	
	あすなるデイサービス利用者及び職員は、鳩原小学校に避難移動 その後、原町福祉会館に避難移動	2014 年 4月1日	小高区福祉サービスセンター 再開 (小高区老人福祉センターにて)
	災害ボランティアセンター 設置 (鹿島区・原町区)	7月1日	社協役員改選
3月14日	福島第1原発3号機 水素爆発	2015 年度（平成 27 年度）	
3月15日	あすなるデイサービス利用者及び要援護者を福島市の施設に避難搬送	2015 年 4月1日	災害復旧復興ボランティアセンター 移転 (小高就業改善センターへ)
5月9日	すみれデイサービスセンター 再開 (ひまわりデイサービス合同)		小高区福祉サービスセンター 移転 (小高区役所内へ)
8月1日	生活復興ボランティアセンターへ移行		生活困窮者自立支援事業を南相馬市より受託
	生活支援相談員 配置	5月1日	生活支援相談室原町事務所 開設
8月22日	鹿島区復興イベント（感謝のつどい）	2016 年度（平成 28 年度）	
10月29日	高齢者等サポート拠点事業を福島県より受託 高齢者等サポートセンター「希望」開所 仮設のあすなるデイサービス事業再開		小高区（原発から20km内）の 避難指示解除
2012 年 1月	高平児童館 入館のつどい	2015 年 4月1日	小高区福祉サービスセンター 移転 (小高保健福祉センターで開所式を行う) あすなるデイサービスセンター 再開
2月1日	配食サービス事業再開	7月1日	社協役員改選



2017年度（平成29年度）	
2018年 2月29日	災害復旧復興ボランティアセンター 閉所 災害ボランティア感謝のつどいを開催 (2月25日)
2018年度（平成30年度）	
2018年 4月1日	生活支援相談室を統合して新たに事務所を 開設（原町区南町）
8月	ふくしのスローガン事業開始
2019年度（令和元年度）	
2019年 5月	新元号「令和」へ
5月30日	南相馬市社会福祉法人連絡会 設立
6月19日	社協役員改選
7月12日	みんなの食堂「ゆるっと」オープン
10月12日	台風被害発生 (令和元年 台風19号)
10月18日	災害ボランティアセンター 設置 (～11月11日)
2020年 3月12日	高齢者等サポートセンター「希望」閉所
2020年度（令和2年度）	
	新型コロナウイルス感染拡大
2020年 5月	まごころマスク事業実施
10月21日	みなみそうま市民ふくし大学 ボランティア講座 開講
11月5日	災害公営住宅等で、みんなのラジオ体操会 を開始



寄せ書き



何度もくじけそうになり、投げ出しそうになりました。
でも、そんな時に多くの方が支えてくれました。
今の私たちがいるのは、あの時に皆さんがいてくれたおかげです。
普通の生活を過ごせていることに感謝します。
ありがとう！そして、これからもよろしくをお願いします！

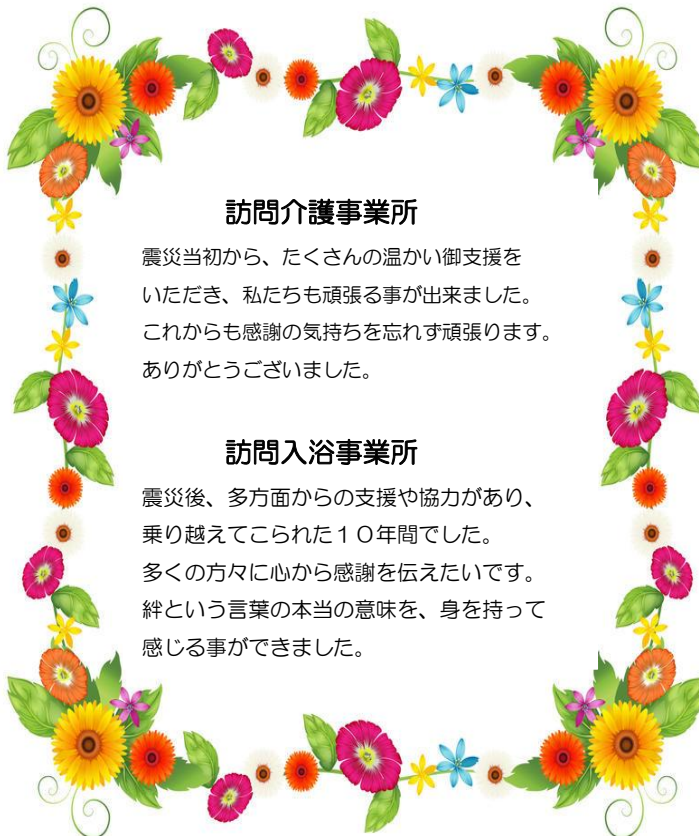
地域福祉課一同

震災から10年が経過し、生活支援相談員配置事業も10年が経過しました。

これまでに、全国からたくさんのボランティアさんや、関係する支援団体に言葉では言い尽くせないほど、大変お世話になりました。

10年経った今でも「あの時は、放射能にも恐れずたくさんの方が来てくれて、炊き出しや催し物などの励ましがあって、とても有難かった」と訪問先で話が出ます。住民の方にとって、忘れられない思い出となっているようです。私たちが生活支援相談員も、心に寄り添った個別支援はもろろのこと、住んでいる地域と被災者がより良い関係を築いていけるよう、地域支援に重きを置きながら継続した支援活動を行っていきたいと思います。

生活支援相談室一同



訪問介護事業所

震災当初から、たくさんの温かい御支援をいただき、私たちが頑張る事が出来ました。これからも感謝の気持ちを忘れず頑張ります。ありがとうございました。

訪問入浴事業所

震災後、多方面からの支援や協力があり、乗り越えてこられた10年間でした。多くの方々から心から感謝を伝えたいです。絆という言葉の本当の意味を、身を持って感じる事ができました。

災害後の混乱の中、デイサービスへ支援に来て下さった皆様、励ましの言葉を寄せて下さった皆様、様々な形で物資を届けて下さった皆様、俯いていた私たちが顔を上げるきっかけを下さった皆様、そして被害の拡大を必死に食い止めて下さった皆様、おかげさまで元気に笑うことが出来るようになりました。

ありがとうございました。

デイサービスセンター職員一同
(あすなる・ひまわり・すみれ)



南相馬市地域包括支援センター
(原町、小高、鹿島)

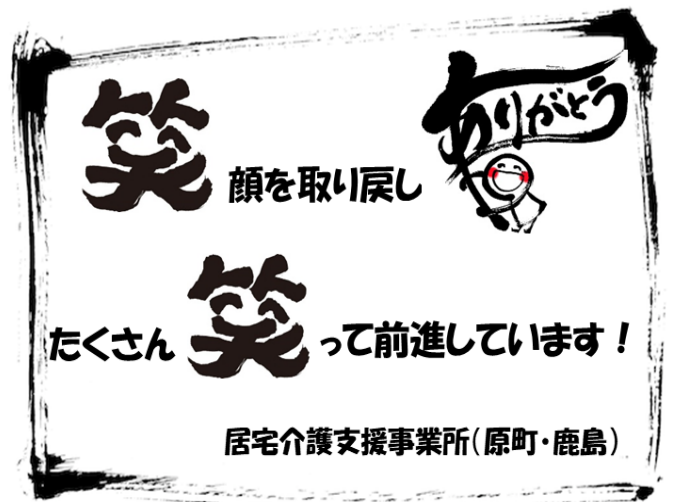
毎日、空を見上げます。あの日の空もキレイな青空でした。

突然の地震と津波に襲われ 10 年。

あっという間に時は過ぎて行きました。

震災前、後、職員の顔ぶれは変わりましたが、利用者さん 1 人 1 人の気持ちに沿ってこれからも支援させて頂きたいと思っています。

あの日、関わってくれた沢山のボランティアさん方に感謝の気持ちを胸に、これからも進みます。ありがとうございました。



震災後、子どもたちに
たくさんの支援をいただきました。
また、多くのボランティアの方に
来ていただき、マジックショーや楽器演奏、
腹話術など、子どもたちが笑顔になる
心の支援をたくさんしていただきました。
とても感謝しています。
ありがとうございました。

仲町児童センター



震災以降、
フランクや砂場、カブラ等の遊具、
防災頭巾等のご支援や、
たくさんのボランティアの方々から、
優しさで笑顔を届けていただき
本当に感謝しております。
おかげさまで子どもたちは、毎日元気に
過ごすことができいております。
そんな子どもたちに、是非また会いに
来て下さいね!

高平児童館

感謝

発行：2021年(令和3年)12月

発行者：社会福祉法人 南相馬市社会福祉協議会

編集：南相馬市社会福祉協議会
東日本大震災記録誌編さん委員会

◆東日本大震災並びに原発事故から10年を迎えるにあたり、本会に関わっていただいた全ての方々への感謝の気持ちを含めながら、本会が歩んできた10年間の記録をまとめました。